



瓊浦高等学校
学校通信
第79号

平成31年3月21日発行
電話 095-826-1261
FAX 095-820-5245

瓊浦窓の

「誠実に(3)」

指導監 荒木 典子

「今年は冬が来ないうちに春になった」という声を聞きました。そう言えば、この冬は厚いコートを着る機会が少なかったように思います。すでに2月下旬には斜面のビワの木々には実に袋が被っていました。間もなく桜開花の便りも届くことでしょう。

さて、冬は寒さのせいで何となく体も心も不活発になる傾向があります。一方、春は何となく心がウキウキするものです。冬の寒くて辛い季節の後では、なおさらです。春の幸福感は、我慢が必要な冬が存在するからこそ、感じられるものかもしれません。同様に、私たちの生活も、常に心地よく、ぬるま湯の状態が続けば、その幸福感も半分になってしまい、「嬉しい」とか「楽しい」という気分もあまり感じなくなってしまうことでしょう。

先日、ある人が、枝にたっぷり雪をまとった冬の木々を見て、「寂しい」とか「暗い」とかの印象ではなく、到来する春や夏に備えて十分にエネルギーを蓄えている逞しさを感じると話していました。「なるほど！」冬は、春により美しく、夏により力強く花を咲かせ、葉を茂らせるための力をつける季節なのだ改めて納得しました。と、同時に、冬景色の木々にエネルギーを感じられる人に、私は前向きな意欲を大いに感じました。

冬の木々が灰色の空に向かって凜として立っているように、進んで寒風や冷水に自分をさらし、心身を鍛えている人が私たちの中にも多くいます。自分がどんな花を咲かせ、どんな樹に成長したいかというはっきりした目標を持ち、そのために日々頑張っている人たちです。本校生一人ひとりが、頑張りによって花を咲かせたり、青々と葉を茂らせたりできるといいなと思います。

実際、一部の植物、特に休眠期間を必要とする植物にとっては、冬はとても大切な季節だそうです。例えば苺。苺は厳しい冬の寒さにじっと耐えながら根に養分を蓄え続け、春に花を咲かせ、初夏にようやく果実をつけます。冬が寒ければ寒いほど、果肉の糖度は高くなるということです。

3月11日、東日本大震災から8年目を迎えました。被災した方々にとってはまだまだ

長い冬が続いています。被災地、岩手県大槌町の白い電話ボックスには、回線がつながっていない黒電話「風の電話」が置かれています。これまで、3万人以上の方が、会えなくなってしまった人にこの電話で、「会いたい」「頑張っているよ」と心の声を語ってきたそうです。これらの短い言葉から辛くても必死に生きる人たちの「力」が伝わってきます。万物が躍動する春。躍動できる力を、与えられた命を大切にしたいと教えられる弥生3月です。

卒業式

第70回卒業証書授与式が、3月1日(金)本校総合体育館において挙行されました。今年度の卒業生は普通科86名、情報ビジネス科59名、機械科132名の計277名です。生徒達は学年主任前田剛先生を先頭に緊張した面持ちで入場し、担任より一人ひとりの名前が呼ばれました。そして学業で優秀な成績を収めた各科の代表3名(普通科小原一愛さん・情報ビジネス科福江美羽さん・機械科下釜基君)が壇上に上がり、校長先生より卒業証書を受け取りました。また、校長先生からは「有限実行の人であれ」「感謝の心を持って生きる」との言葉が贈られました。今年の答辞は、情報ビジネス科B組の福江美羽さん。目に涙をうかべながら、3年間の思い出を一つひとつ振り返り、両親への感謝とともに4月から始まる大学生活への希望を述べました。

今年も保護者席の前にライブ映像用スクリーンを用意しました。カメラを構えてスクリーンに注目する方も多くおられ、卒業生達の凛々しい姿をしっかりとご覧いただけたと思います。当日は多数の保護者の皆様にご列席いただき、ありがとうございました。今日までのご支援・ご協力に対し、心より感謝申し上げます。今後とも瓊浦ファミリーの一員として、本校を見守っていただきますようお願い申し上げます。



強歩大会

3月8日(金)、強歩大会が行われました。女子は本校を出発し女神大橋で折り返す20km、男子はそこから神ノ島のコースを加えた30km弱の距離です。生徒達は体育の時間に走って体力をつけ、当日に備えています。今年は少し歩くと汗ばむ陽気で、スタートから例年よりも早いペースで進んだように感じられました。それぞれ自分の体力に合わせて歩いてよいのですが、中には全部走り通した生徒も。ゴール後には保護者の方々が温かいうどんを用意してくださいました。ある生徒によればこのうどんを食べるためにがんばるのだとか。今回も多くの皆様に炊き出しにご協力いただきました。お忙しいなか本当にありがとうございました。



総合成績

男子30kmの部	第1位	龍普2A
	第2位	普2B
	第3位	普1B
女子20kmの部	第1位	普1B
	第2位	龍普2A
	第3位	普1B
最速賞	男子	普1B

(新郷・谷口 前山・横山)

県内企業研究ツアー

3月14日(木)、情報ビジネス科・機械科の2年生を対象とした県内企業研究ツアーが開催され、今年度は龍馬コース普通科A組も参加しました。これは生徒の勤労観・職業観の育成、自己理解・就業理解の促進、県内企業に対する理解と就労意欲の向上を目的として、ヤングハローワーク長崎のご協力を得て行なわれるものです。参加企業は造船・機械・ホテル・サービス業等20社と自衛隊長崎地方協力本部。生徒は1人3社ずつ選ぶため、これまであまり関心のなかった業種の説明も聞くことになります。体育館や教室に設置された各企業ブースを訪問した生徒からは「これまで考えていなかった進路が見えてきた」「興味が高まった」等の感想が聞かれました。企業の方からも大変好評で、なかには立派な社会人となった卒業生も見られました。そうした先輩の姿は、後輩達に働くとはどういうことか具体的なイメージを持たせるとともに、自分にもできるのではという励みとなったようです。間近に迫った進路決定に向けて、大変貴重な機会となりました。



美術授業 作品鑑賞会

美術を学んでいるクラスは3月14日(木)長崎県美術館に行き、「誕生50周年記念 リカちゃん展」「青木野枝 ふりそそぐものたち」および常設展を鑑賞しました。「リカちゃん」展では約580体の着せ替え人形リカちゃんが展示され、当時流行したファッションなどが紹介されています。有名ブランドとコラボしたきらびやかなリカちゃんもあり、男子生徒も意外と楽しんだようです。青木野枝は、大学在学中より一貫して鉄を素材に作品を制作してきた彫刻家です。鉄や色ガラス等の素材を用いた作品に、生徒達は興味深げに見入っていました。他に常設のスペイン絵画等を鑑賞し、盛りだくさんの内容に、予定された1時間では足りなかったようです。生徒達の熱心な態度には、美術館の方も感心していました。けいほ展も開催された美術館を、より身近に感じられるようになったのではないのでしょうか。



JAXA連携授業

2月26日(火)、JAXAから竹前俊昭先生をお迎えして連携授業が行われました。直前にJAXAの小惑星探査機「はやぶさ2」がリュウグウへのタッチダウンに成功。先生よりいつも増して熱のこもった貴重なお話を伺うことができました。今年度の龍馬コース1年生はペットボトルロケット製作、2年生普通科A組は環境データの解析について、3年生機械科A組は缶サット(空き缶サイズの模擬人工衛星)製作に励んできました。缶サットでは気温と落下加速度の計測を達成。今後はデータの記録と保存、そこからの考察を目指します。



(主な行事) 4月

8日(月)	始業式・容儀指導(2・3年) 新任式・受納式 入学式・対面式 PTA入会式
9日(火)	部活動紹介 交通講話 内科検診(~10日)
10日(水)	勤労体験学習(3年) 宿泊研修(1年)(~12日)
15日(月)	第1回実力考査
16日(火)	進路適性検査 各種委員任命式
17日(水)	写真撮影(~18日) 面談週間(~24日)
19日(金)	歓迎遠足(唐八景)
23日(火)	心理テスト(1・2年) クレペリンテスト(3年) 身体測定
24日(水)	心電図検査(~25日)

